

62歳で起業 劇的人生

清涼飲料水メーカー、ハルナグループ（高崎市足門町、青木麻生CEO）の創業者で7月に90歳で亡くなった青木清志さんのお別れの会が26日、市内で開かれた。弦楽器のアンサンブルに迎えられた参列者が、芸術を愛し「演劇的経営」を掲げた故人をしのんだ。



ハルナグループ 青木清志さん死去

大学進学を機に家出同然で演劇の道へ。舞台を取り仕切る演出家を志したが、肺結核を発症して断念せざるを得なかった。その後は商社勤務や経営者として世界を飛び回った。

演劇に代わる、人生を懸ける価値のある何かを探し続けた。見つけたのが、日本の水を世界に売り出すことだった。良質な水を求めて行き着いた本県で起業した時、62歳になっていた。十分な資金も顧客もなく、製

造業の経験すらなかった。緻密な事業計画で融資を引き出し、設計図を示して大口受注の約束を取り付けた。完璧な筋骨きだけが武器だった。「俳優」である人材を育て、輝ける舞台と脚本を整える。それが演劇的経営の神髄だ。同社の売上高は今や300億円に迫る。

「どんな悲劇も、嘆きの場面ばかりは続かない。苦しいときは、目の前がパッと開ける『次の幕』を想像していたよ」。上品な例え話が印象に残る。人生そのものが傑作だった。

（石倉雅人）